

新館長からの挨拶

平成31年4月より図書館長に就任します。図書館は大学の研究や学究を支える大事な機関で、知の殿堂ともいふべきところですが、それぞれの分野の一線級の資料や、最新の情報が常時準備されており、本学の知的活動の充実に大きく寄与してまいりました。これからも図書館職員の方々と図書委員の先生方と協力して、皆さんが活用しやすく、かつ多様なニーズにも応えられる図書館を目指して運営して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

国語研究室 田中 洋一

2019年度 図書館開館延長カレンダー

2019年 4月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2019年 5月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2019年 6月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2019年 7月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2019年 8月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2019年 9月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

9:00~13:00	9:00~14:00	9:00~16:00	9:00~17:00
9:00~19:00	9:00~20:00	終日閉館	未定

Information

『いだてん』登場人物と本学との関わり

NHK大河ドラマ『いだてん～東京オリンピック囃～』は、日本最初のオリンピック選手として、第5回ストックホルム大会に出場した金栗四三（かなくり しそう）と、1964年東京オリンピック招致活動を支えた田畑政治（たばた まさじ）の物語です。

本学の学園史資料に、「いだてん」に登場する人物が撮影された写真があります。東洋初のIOC（国際オリンピック委員会）委員、嘉納治五郎と、日本のオリンピック初参加に尽力した可児 徳（かに いさお）です。

可児 徳は、明治35年の本学創立時から本学教員として関わりがありました。嘉納治五郎は、創立者藤村トヨと関わりがあり、学生たちに柔道の指導を行っている様子が写真に残されています。



第18期卒業生との写真(大正2年 日暮里)
可児 徳：上段左から2人目
藤村 トヨ：下段右から4人目
伊澤 エイ：下段右から3人目



柔道練習 (撮影年不明)
嘉納 治五郎：左から2人目

NHK大河ドラマ「いだてん」の特別展示は図書館入口で5月以降に展示を行いますので是非、ご覧ください。

本学関係・寄贈図書

平成30年4月～平成31年2月まで受入分

No.	寄贈者	書名	著者名・監修	出版者(発行年)
1	武藤伸司	力動性としての時間意識	武藤伸司著	知泉書館(2018)
2	二宮祐子	子育て支援	二宮祐子著	萌文書林(2018)
3	二宮祐子	保育者のためのパソコン講座	阿部正平著	萌文書林(2018)
4	掛水通子	日本における女子体育教師史研究	掛水通子著	大空社(2018)
5	及川佑介	バスケットボール競技史研究概論	小谷究編著	流通経済大学出版社(2018)

編集・発行：東京女子体育大学・短期大学図書館運営委員会
東京都国立市富士見台4-30-1 TEL.042-572-4131

一旅立ち

平成最後の冬となった今年は、より一層寒さも厳しかったですが、みなさんはいかがお過ごしでしたか？人間はいつの時も厳しい環境に置かれていた時にこそ、本当の力を蓄えていく時でもあります。このリーヴルが発刊される時は、明るく春を迎える季節となっているかと思えます。厳しい寒さを乗り越えた後は、素晴らしい未来が待っているはず。就職、進級、みなさんのこれからは希望に満ちています！新年度に向けて、また1歩踏み出していきましょう！



陸上競技研究室 櫻田先生提供



『日本における女子体育教師史研究』

本書は平成23年度博士学位論文にその後の研究を加えたもので、8部28章486頁から成る。私が本学在職44年間で書いた論文中、半分ぐらいの論文を基にしており、平成29年度学術振興会科学研究費補助金研究成果公開促進費学術図書館の補助を得て、出版した。

明治初期から現代に至る日本における女子体育教師史の全体像を体系的に明らかにし、それを通して、今後の女子体育教師のあり方について考察を行った。日本における女子体育教師は、当初女性観から形成された「女子体育」のために必要とされ、国の教育施策により差異化されるなど、女性観、教育制度などの変遷とともにその役割を変化させながら存在してきたことなどを述べている。

教師を目指す学生さんに、根気強く読んでいただきたい書である。

体育史研究室 掛水 通子



◎『日本における女子体育教師史研究』(掛水通子 著/大空社出版)

『夢をかなえるゾウ』



◎『夢をかなえるゾウ』(水野敬也 著/飛鳥新社)

今、生きている中で、「自分を変えたい」と思う人は、そう少なくないと思います。

この本は「自分を変えたい」と願ったダメダメな主人公が、ガネーシャから出題される課題を毎日一つずつ実行していくという物語です。

課題の中には、「これを行って効果はあるのだろうか?」と疑問に思うものもあります。ですが、過去に大きな仕事を残した偉大な人達が通過してきた課題です。なので、実行してみると、後々良いことが起きるかもしれません。

私自身、この本を読む前と後で、自分の考え方が少し変わりました。また、そのお陰もあってなのか、その年には成功したことが沢山ありました。

「信じるか信じないかはあなた次第です。」是非、手に取って読んでみてください。

体育学部3年 河津 茉佑

『「マンモスのつくりかた」絶滅動物がクローンでよみがえる』

ロシアの永久凍土の中に数万年前に生息していた生物がそのまま冷凍された状態で発見されています。2010年に発見された子どものマンモスは「YUKA(ユカ)」と名づけられました。全身が完全な状態だったので、マンモスの生態や絶滅の原因などを探る貴重な資料になりました。

2013年に、この冷凍標本が横浜で展示されたので興味津々で見に行きました。その時に、日本でマンモス再生の計画があることを知り、びっくりしたのです。現在生存しているゾウの卵にマンモスの遺伝子を移植し、その卵子をもとの象に戻して出産させるのです。生まれてくるのはマンモスの赤ちゃんになります。技術的に何とか実現できそうですが、メスの象の確保ができないので、研究が進まないといったのが印象に残っています。

マンモスのような絶滅種の生物を復元する計画は日本だけではありません。この本にはアメリカで行われているマンモスの再生についての研究の現状とこれからの展望が述べられています。絶滅種を復元するための科学的技術をわかりやすく丁寧に紹介しているので粘り強く読み進めてほしいと思います。

さらに、復元した後の絶滅種は映画「ジュラシック・パーク」の恐竜のように最先端科学の成果として見世物のように扱うのか、それとも自然環境の中に生息地を求めるのか、夢が現実のものになった場合生じる課題についても触れています。

クローン技術が進歩しても生物の絶滅は簡単に解決できないようです。自然も科学もまだまだ分かっていないことがたくさんあり、奥が深いです。

理科研究室 圓谷 秀雄



◎『「マンモスのつくりかた」絶滅動物がクローンでよみがえる』(パス・シャピロ 著/筑摩書房)

『幼児教育の経済学』

2019年度から幼児教育の無償化が始まります。このきっかけのひとつになったのが、『幼児教育の経済学』です。タイトルに経済学と入っていることで、多くのビジネスマンがこの本を読んだそうです。ノーベル賞経済学者ジェームズ・J・ヘックマンが40年にわたって追跡調査を行い、就学前教育の重要性について、人生における成功は、認知的スキルだけでは決まらない。賢さ以上に非認知的能力である社会的・情動的性質に左右されると実証的に明らかにしています。同じお金をかけるなら、幼児期にかけた方が、効果が上がるということなのです。中室牧子氏の『学力』の経済学』と一緒に読み進めると、幼児期にどのような働きかけが必要なのかがわかり、幼児教育の重要性をよく理解できるのでは!? 保育・幼児教育を学ぶあなたにおすすめの一冊!

保育内容研究室 土井 晶子



◎『幼児教育の経済学』(ジェームズ・J・ヘックマン 著 古草 秀子 訳/東洋経済新報社)

『「精霊の守り人」影との戦い—ゲド戦記(1)』他』

皆さんは、読書は好きですか? 普段本を読みますか? どちらもNOだったあなたに是非お勧めしたいジャンルがあります。それは児童文学です。

「どうせ子どもの本でしょ」なんて言わないでください。児童文学には人生哲学を語った作品が数多くあります。『精霊の守り人』はじめとした「守り人シリーズ」は、短槍使いのバルサと皇子チャグムの旅を通して普遍的な愛、平和、孤独について考える機会を与えてくれます。綾瀬はるか主演したNHKドラマとして覚えている人もいるかもしれませんが、「ゲド戦記」は、人は何のために生きるのか、“おそれ”とは、本当の自由とは何か、を私たちに問いかけ続けます。



◎『影との戦い—ゲド戦記(1)』(アーシュラ・K. ルーグウィン 著 清水真砂子 訳/岩波書店)

他にも『はてしない物語』『モモ』『白狐魔記(しらこまき)』『ぼくらの七日間戦争』『親鸞』などなど、枚挙にいとまがありません。字が大きく言葉も簡単なので、読書に不慣れな人でも夢中になって読んでしまいます。ぜひ、図書館や本屋さんの児童文学コーナーへ行ってみてください。時には小さなスマホの画面から離れて、壮大なファンタジーの世界をのぞいてみるのも悪くないと思いますよ。

保育実践研究室 會森 恵美



◎『精霊の守り人』(上橋 菜穂子 著/偕成社)